

「相中相高百年史」より
(戦時体制下の相馬中学校 2)

2 国民精神総動員法の周辺

1937 (昭 12) 年 9 月、福島県中等学校長会において、時の伊藤知事は、日中戦争勃発による非常時局に処する教育方針として、「国体を明徴にし、国民精神振作昂揚」すべき旨の訓示を下した。これは同年 8 月公布の「国民精神総動員実施要綱」に基づいたものであり、その中核をなすものは、「挙国一致」「尽忠報国」「堅忍持久」である。

この運動は「国体観念の明徴」と「日本精神の発揚」を通して、「中堅皇国民の育成」に当たるといふものである。同会議において、国民精神の振作昂揚、時局認識の強化、国民思想の統一強化を図るなどの指示があった。

本校において具現化したものを見ると、

(ア)「精動運動」週間の設定

「精動運動」展開に際して、その趣旨徹底策の一つとして「ラジオ」というマスメディアを利用したのは意義深いことである。これは、「ラジオ放送^(※1)による国民精神総動員の解説実施に関する件」の通牒によって、「精動特報」の時間が特設され、「ラジオを聴取し其の実効を挙ぐるに努められたし」という要請で、全校生徒講堂で聴取するのである。

……

1938 (昭 13) 年 10 月、福島県知事宛の「国民精神総動員銃後援強化週間実施」報告書から、2 日間だけを抜粋してみる。

10 月 8 日

- 1、職員生徒一同中村、相馬両神社ニ於テ戦傷軍人ノ平癒並ニ出征軍人ノ武運長久ノ祈願ヲ実施セリ
- 2、本校応召職員四氏ノ留守宅ヲ慰問セリ
- 3、戦没軍人五氏ノ遺族ヲ慰問シ且線香一箱宛霊前ニ供シ後墓参並ニ同墓地ノ清掃ヲナセリ
更ニ右五氏ノ内三氏ノ遺族ニ対シ職員生徒三十九名ハ桑園ノ手入、種蒔、屋敷ノ掃除ヲ手伝ヒリ
- 4、出征軍人一氏ノ留守宅ニテ十名ハ塵運搬、庭掃除ニ従事セリ
- 5、慰問作品ノ製作

10 月 9 日

- 1、職員以下百五名ハ妙見神社、中村神社、熊野神社、八幡神社境内及宝蔵寺、円応寺境ノ内ノ除草、清掃作業ニ従事セリ
- 2、職員生徒約五十名ハ相馬郡真野村日吉神社ニ於テ戦傷軍人ノ平癒並ニ出征軍人ノ武運長久祈願ヲ実施セリ
- 3、戦没軍人五十八氏ノ遺族ヲ慰問シ且線香一箱宛霊前ニ供シ後墓参並ニ同墓地ノ清掃ヲ実施セリ
- 4、戦没軍人二氏出征軍人三氏ノ家庭ニ於テ職員以下百名桑ノ結立、畑ノ除草作業ニ従事セリ
- 5、慰問作品ノ製作

尚該週間ヲ通ジテ毎日正午各教室ニ於テ昼食前戦傷軍人ニ対スル平癒祈願並出征軍人ニ対スル武運長久祈願ヲ実施シ修身、作文、習字等ノ教材ヲ選択シテ戦没軍人、傷痍軍人並ニ出征軍人ニ対スル尊敬感謝ノ念涵養ニ努力シタリ

以上ノ如キ実施状況ナルモ結果ハ極メテ有意義ト思考セラレ殊ニ此等軍人ノ遺族ニ与ヘシ精神的感激ハ著明ナルモノアリ、且又生徒教育上及セル効果顕著ナルモノト認メラシ 戦没、傷痍軍人並ニ出征軍人ニ対スル感謝ト銃後国民トシテノ自覚ヲ促スコト多大ナルモノアルヲ痛感セリ

唯奉仕スベキ勤勞作業ハ地方ノ実状ヲ鑑ミテ予想外ニ少ナキハ物足ラヌ感アルモ之レガ実施ニ当リテハ将来常ニ注意ヲ払ヒヨク地方町村役場及警察等トモ連絡ヲトリツツ万遺漏ナキヲ期スル覚悟ナリとある。

初期の段階においては戦没遺族、傷痍軍人の家庭訪問、慰問作品の製作、傷痍軍人の平癒及び出征軍人の武運長久祈願などの精神強化運動の要素が濃厚であったが、それが後の「尽忠報国の精神を發揚し献身奉公」を促す、学徒動員等の伏線になるのである。

この運動の倫理的な指導者の一人、19回卒業の伏見猛弥^(※2)（当時、国民精神文化研究所所員）は、37（昭12）年7月、全校生を前に「将来の国防思想において、戦線に立たぬまでも、国内思想動揺を断固として防がねばならぬ」（『学友会雑誌』第35号）旨の講演を行っているのも意義あることといわねばなるまい。

（イ）勤儉貯蓄の推進

「国民貯蓄報告強調週間」なることばがこの時期に頻出する。これは日中戦争が拡大化され、経済国策協力運動の一端としてあらわれたものであり、生活の刷新が叫ばれ、物資の活用、消費節約、勤儉貯蓄の推進が謳われるのである。

1938（昭13）年、福島県学務部長宛の「国民精神総動員貯蓄報国強調週間設定ニ関スル実績」報国書の中では、

- 一 職員の部 生活費を節約し、国債に応募することに決定。又、旅順陥落祝勝記念貯金会（相馬中学校職員貯金会）の積み立て額を各人一口以上（一口壹円）増額することに決定し、この期間中に総額五五円を積立てる。（貯蓄総額六月現在高が、壹千貳百八十七円六十銭となっている）。
- 二 生徒の部 週間の前日、全生徒に対して日中戦争と国民貯蓄との関係を説明し、貯蓄報国強調週間設定の趣旨を強調し、この期間貯蓄をした生徒数は百十八名、総額貳百四十円五十銭となっている。

(※1) 日本のラジオ放送開始は1925(大正14)年。

(※2) 中村出身 東大(文)